

平成28年

10月23日 日

開場12:30 / 13:00~17:20

江戸東京博物館

1階ホール(東京都墨田区)

第1部

基調講演 アジア・太平洋海域
世界の中の長崎と九州
濱下 武志氏(東京大学名誉教授)

講演① 土着化した長崎の華僑文化
~多文化共生による観光政策と地域活性化~
王 維氏(長崎大学教授)

講演② 全体知の中での
長崎県の立ち位置
~17世紀オランダからの視界の連載を続けて~
寺島 実郎氏(日本総合研究所会長、多摩大学学長)

参加費
無料

定員
400名
先着順

〈自由席〉

※事前申込が必要です。
申し込みのない方は当日ご入場
いただけない場合がございます。

日中の絆を深めた人々

アジアをつなぐ長崎ロード

第2部 パネルディスカッション

『偉人や交流史を通して
「日中を繋ぐまち長崎」の
新たな魅力を掘り起こす』

コーディネーター

●朱 建榮氏(東洋学園大学教授)

パネリスト ※五十音順

●小坂文乃氏(梅屋庄吉の曾孫、日比谷松本楼 代表取締役副社長)

●陳東華氏(長崎中国交流史協会 専務理事)

●濱下武志氏(東京大学名誉教授)

●劉莉生氏(株アジア太平洋観光社 代表取締役社長)

●廖赤陽氏(武蔵野美術大学教授)

長崎PRコーナー

12:00~17:30
1階ホール前ロビー

長崎の観光情報、世界遺産関連パネルの展示、
長崎アンテナショップの紹介など。
長崎PRコーナーは、どなたでも
ご自由にご覧いただけます。

「長崎の魅力をお伝えするコーナーです。ご自由にご覧いただけますので、ぜひ足をお運びください!」

主催:長崎県、長崎県日中親善協議会、日本華人教授会議

後援:株アジア太平洋観光社、全日本華僑華人連合会、多摩大学、
(一社)寺島文庫、(一社)東京華僑総会、長崎華僑総会、長崎新華僑華人協会、
長崎中国交流史協会、日本華僑華人聯合総会、(一社)日本中華総商會、
(公社)日本中国友好協会、日本日中関係学会、日本福建経済文化促進會、
横浜華僑総会 (五十音順)

お申込み方法 ※申込みメ切10月22日

① TEL 095-895-2087 ② FAX 095-827-2487

③ ネットで検索 ④ QRコードをスキャン



FAX お申込み様式	1.お名前(フリガナ)	2.連絡先(TEL・FAX・Email)
	※〈必要事項〉	

※いただいた個人情報は、本シンポジウム開催以外の目的には使用しません。

お問い合わせ先

長崎県国際課 TEL 095-895-2087

※プログラムの内容は一部変更される場合があります。

第1部 出演者のプロフィール

濱下 武志 (はました たけし)



静岡市出身。東京大学名誉教授、香港大学人文社会科学研究所名誉研究員、広州中山大学アジア太平洋学院院长などを歴任。経済活動を中心とする東アジア研究に

より、従来の西欧中心の世界史認識を大きく塗り替えた。著書に、『近代中国の国際的契機—朝貢貿易システムと近代アジア』（アジア太平洋賞・大賞）、『華僑・華人と中華網』ほか。

王 維 (おうい)



中国瀋陽市出身。幼い頃から中国琵琶を習い、プロの琵琶奏者として活動。文化人類学と民族音楽学分野それぞれで博士学位を取得。香川大学の教授を経て、

2014年10月より長崎大学多文化社会学部教授。海外中国系移民社会および中国文化、日中民族音楽の研究に取り組み、著書に『日本社会における伝統の再編とエスニシティ』ほか。

寺島 実郎 (てらしま じつろう)



1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所所長、三井物産常務執行役員、三井物産戦略研究所会長等を経て、現在は(一財)日本総合研究所会長、多摩大学学長。近著に『寺島実郎 中東・エネルギー・地政学 全体知への体験的接近』、ほか著書多数。メディアにも多数出演。

第2部 パネルディスカッション出演者のプロフィール (五十音順)

朱 建榮 (しゅけんえい)

～コーディネーター～



中国上海市出身。大学で日本文学を専攻。86年来日し、学習院大学大学院で博士号(政治学)を取得。専門は、「中国の政治外交史・現代史」、「東アジアの国際関係」。

96年以降は東洋学園大学教授を務める。また2003年以降10年間、日本人教授会の代表を務めた。著書に『毛沢東の朝鮮戦争—中国が鴨緑江を渡るまで』、『鄧小平は死なず—12億の民はどこへ行くのか』ほか。

小坂 文乃 (こさか あやの)

～パネリスト～



1968年東京生まれ。中学・高校時代を英国で過ごす。立教大学社会学部観光学科卒業。英国系企業を経て、現在、日比谷松本楼代表取締役副社長。2011年長崎

県民特別賞。2012年上海市より白玉蘭賞(上海市名誉市民)。長崎県吉崎市観光大使、中国宋慶齡基金会理事ほか。著書「革命をプロデュースした日本人」、「梅屋庄吉の生涯」。梅屋庄吉の曾孫として日中親善の活動に携わる。

陳 東華 (ちんとうか)

～パネリスト～



長崎市生まれの在日華僑4世。大学終了後、京都・神戸の華僑団体勤務後、神戸で中国專業旅行社を経営。その後、長崎にもどり、ホテルの経営に携わる。長崎福建会

館理事長、長崎中国交流史協会専務理事などを務め、長崎における日中交流史研究をライフワークとしている。執筆に『孫文と長崎華僑』、『長崎華僑の歴史』ほか。

劉 莉生 (りゅうりせい)

～パネリスト～



中国福建省出身。大学卒業後、華僑向けの通信社である「中国新聞社」に入社。その後、日本留学などを経て、95年から5年間中国新聞社東京支局長として日本に駐

在。現在は、(株)アジア太平洋観光社の代表取締役社長として、日本観光ガイドブック『旅日』などを発行するほか、各種の日中交流イベントを開催。また、香港の民営出版社『香港中国旅遊出版社』の副編集長でもある。

廖 赤陽 (りょうせきよう)

～パネリスト～



中国福建省出身。厦門大学卒業後、88年に日本留学。東京大学大学院で博士号(文学)を取得。博士論文のテーマは、西洋による近代化ではなく、長崎を中心に

近代東・東南アジアに広げた華商の広域ネットワークの再構築について。98年から武蔵野美術大学教授で歴史学の教鞭をとる。著書に『長崎華商と東アジア交易網の形成』ほか。

江戸東京博物館へのアクセス

【住所】

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

【アクセス】

- JR総武線 両国駅西口下車 徒歩3分、東口下車 徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線 両国駅(江戸東京博物館前) A3・A4出口 徒歩1分
- 都バス錦27・両28・門33系統、墨田区内循環バス「すみだ百景すみまるくん・すみりんちゃん(南部ルート)」都営両国駅前(江戸東京博物館前)下車、徒歩3分